

大阪あゆみ福祉会 2023年度（令和5年度）事業報告（案）

2023年度は新型コロナウイルス感染症が5類に変わり、以前の保育へと戻り始めた一年でした。行事は見直した部分も多くあり、あゆみまつりや敬老の集いなど保護者参加の枠を広げ、子どもたちの元気な姿をみていただくことができました。

そのような中、安全面や子どもへの関わり、対応について見直す事例が苦情連絡と合わせて複数件おこりました。普段から安全面と子どもへの寄り添いなどについて職員会議や打ち合わせの中で確認し、必要に応じてヒヤリハットを活用しながら情報共有を行ってきました。日常保育の中で「安全」「大丈夫」という思いも違う視点から見たら「安全でない」こともあり、気づいていないこと、見えていないことが多々あると再確認しました。今後も子ども達が日々安心して過ごし、人権や主体性が尊重されるような保育を目指して学習や振り返りを行いながら、職員同士が声をかけ合って保育を進めていこうと思います。

財政的には、乳児・幼児と定員割れがあった中、出来る限り補助金申請をして何とか収入を増やしました。大きな割合を占める人件費については、派遣職員の継続的な採用やグリーゼン児童が増加による非常勤職員の途中採用などやむを得ない状況にあったこと、また処遇改善費や人事院勧告など全額職員の人件費として支給せねばならず、予算オーバーしました。法人全体としては修繕費や賞与補填等に積立金1200万を取り崩す中でも積み立てを300万するなど黒字で年度を終わらせることが出来ました。

全国的な保育士不足は加速しており、今年度も派遣会社に頼った一年でした。保育士がなかなか見つからないという現状はありますが、2023年度は「ホームページを見ました」と採用についての問い合わせ電話が2件入りました（結果的には連絡がつかなくなり採用には至っていません）今後もホームページの活用、またホームページの内容のリニューアルをしながら保育園のアピールをしていこうと考えています。

職員の処遇改善としては働きやすい職場作りを目指して今年からリフレッシュ休暇が始まり、両園6名の職員がリフレッシュ休暇を取得しました。職員事務の簡素化に向けては、iPadやノートパソコン等を各クラスに配置できるよう2024年度を目途にICT化に向けて準備をしています。また、経理入力ソフトを「ミロク」へと変更し、税理士からのチェック体制もクラウドになったことでその都度タイムリーに訂正してもらえるなど効率的になりました。そのことによって園長も経理状況が把握できています。

法人としては新たな取り組みとして役員報酬の改定を行い、理事長の毎月の報酬が確定しました。また、法人の中長期計画も作成し始めており、今後ご意見をいただきながら進めていきたいと思えます。

保育情勢としてはいままでの運動の成果で75年ぶりに4・5歳児の配置基準の改善があり、保育運動としては大きな一歩となりました。しかし、全国的な保育士不足により経過措置として25:1の配置適用をしない施設もあり、実施施設には「4.5歳児配置改善加算」として公定価格上の措置を設けました。またチーム保育推進加算を受けている施設は加算対象外など、法令改正はしたものの利用しにくい状況があり、両園について全くメリットはありません。1歳児の配置基準改善についても2025年度以降の早い時期とされ、先送りになっているので、今後も組合とも協力しながら国や自治体に向けて運動を継続して行っていけます。

2023年度事業報告資料

別紙1 2023年度法人活動記録

別紙2 2023年度法人・施設体制担当者名簿

別紙3 2023年度三者懇談会報告（各園別）

別紙4 労働組合との話し合い報告

別紙 各園の報告①～⑦

①年間行事結果表 ②各月初日児童在籍数 ③児童出欠率表 ④病気・ケガ報告表 ⑤職員休暇取得状況表 ⑥職員研修参加状況表 ⑦職員との個人面談まとめ（自己評価・アンケートより）